まちづくりひろしま

被爆１００年(西暦2045年)の姿をめざして

祝第６０号（令和４年７月１５日）
読者数：６７６名（募集中）
ﾒｰﾙ:hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp
HP:https://machizukurihiroshima.web.fc2.com/index.htm
〒733-0002　広島市西区楠木町 1-9-7
発行人：前岡智之、編集人：瀧口信二
配信元：広島アイデアコンペ実行委員会
ご提案・ご意見等は、こちらまで

ウクライナに平和を！平和を我らに！

○広大旧理学部１号館の保存の動き
広大旧理学部１号館の正面

○旧広島陸軍被服支廠
手前が国所有の４号棟

○図書館移転問題・トークイベント
基調講演の会場

○２代目平和の鐘
第１回祈念式(2015 年)

目　次

○巻頭言：G7 サミット広島開催決定に思う……編集委員　瀧口信二
○ひろしまのまちづくりの動き
・被服支廠、国所有も保存へ
・広島大学旧理学部１号館の保存活用の動き
○「時代を語り建築を語る会」の報告：ゲスト　千田武志（広島国際大学客員教授）
○「図書館移転問題を考えるトークイベント 2022」の報告：基調講演者　弓狩匡純
○ほっとコーナー：諸悪莫作修善奉行……茶道教授者　佐藤祐江
○「旧陸軍被服支廠の活用策を探る広島県の動き」その３……コメント　青木知栄
○総集編（２）「響け！平和の鐘実行委員会」の活動の歩み…… 片平　靖
○特別寄稿：プーチンの強気 …… ガリバープロダクツ代表　通谷　章
○読者からの投稿：絶対反対！……読者　小河内俊彦
○編集後記：この時にするべきこと…… 編集委員　前岡智之

□ 巻頭言

Ｇ７サミット広島開催決定に思う

編集委員　瀧口信二

来年の先進７カ国首脳会議（G7 サミット）は５月に広島市で開催されることが決まった。岸田首相が広島選出であることもさることながら、ロシアのウクライナ軍事侵攻でプーチン大統領が核兵器使用の可能性をにおわせ、核兵器が現実味を帯びたことも決定の大きな要因となった。

首相も「広島ほど平和へのコミットメント（関与）を示すのにふさわしい場所はない。核兵器の惨禍を人類が二度と起こさないとの誓いを世界に示す」と述べている。

ロシアの軍事侵攻が始まってすでに４ヶ月が経過し、いまだ終息する気配はない。このままいけばベトナム戦争（1955～1975）の 1960 年代のように泥沼化するかもしれない。多くの犠牲者と壊滅的な破壊が進み、ロシアもウクライナも疲弊して、世界中が得るものは何もなく、ただただ悔悟と反省が残るのみ。第二次世界大戦後と酷似した状況となり、また平和を取り戻すために国際連合に変わる新たな国際機関を作り直すのだろうか。

ウクライナの戦場での凄惨な映像がリアルタイムで世界中に流れ、見る人の心が痛み、やるせない虚しさだけが残る。ロシア国民には報道規制をして真実を伝えず、政府にとって都合の良いプロパガンダだけを発信している。

歴史は繰り返されるというが、太平洋戦争においても日本が負けているのに、国内では景気の良い話しか流されず、内地が空襲されるまで多くの国民は実態を知らなかった。また、日本もロシアの「ウクライナを非ナチ化する！」と同様の「大東亜共栄圏を築いて、東南アジアを欧米の植民地支配から解放を！」という大義名分を掲げて侵略戦争を行っていた。

東京大空襲や原爆投下のまちの惨禍の情報が、もし今のように交流サイト（SNS）などで直ちに世界中に伝播していたら、どんな反響が起きただろう。これは戦争行為などではなく、無差別の殺戮であり、見た人は人間の愚かさに衝撃を受け、懺悔の念に駆られたに違いない。日本国内だけでなく世界中から戦争中止の声が上がったのではないか。

戦後日本は連合国軍（GHQ）占領の下、平和国家を目指す日本国憲法が制定され、第９条には戦争の放棄までうたわれた。お陰で国の防衛は日米安全保障条約に委ねて、もっぱら国土の復興に専念して短期間に復興を果たすことができた。制定から 76 年が経過した現在、世界の情勢に合わせた自衛の権利をどこまで広げるべきか憲法論議がなされている。

日本国憲法と同じような理念で作られた広島平和記念都市建設法が 1949 年に制定された。それは一発の原子爆弾により一瞬にして廃墟と化した広島のまちの復興が、世界平和の原点として位置づけられ、国家的事業として認められたからだ。

第１条の**目的**、「この法律は、恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、広島市を平和記念都市として建設することを目的とする。」

第６条の**広島市長の責務**、「広島市の市長は、その住民の協力及び関係諸機関の援助により、広島平和記念都市を完成することについて、不断の活動をしなければならない。」

戦後は終わり、広島も復興して立派な都市になり、すでにこの法律の役割は終えたという意見もあろう。事実、この法律に基づく国からの財政的な支援はないかもしれない。

しかし、果たして第１条の目的は達成したと言えるだろうか。

否である。広島は世界平和のシンボルとして平和記念都市の風格をまだ備えているとは言えないし、市のキャッチフレーズである「国際平和文化都市」ともほど遠い。

平和記念都市のコアである平和記念公園と中央公園には世界遺産の原爆ドームを挟む形で、平和を記念する施設や文化的施設などが平和記念都市建設法に基づき整備されてきた。

それが今や、新サッカー場が建設されることにより中央図書館やこども図書館、青少年センターなどが追い出されようとしている。平和記念公園でも分かるように緑豊かな空間にいるだけで心が落ち着くし、市民の憩いの場となり、都心の貴重な空間となる。そんな中に文化施設がたた

ずんでこそ広島の文化度がより一層高まっていく。

今、広島は岐路に立たされている。原爆被爆者が高齢化し、年々生存者が減少し、そのうち被爆者がいなくなる。被爆体験の継承をどうするか、被爆の記憶をどう残すか、いかに平和を世界に訴えていくか、等々課題が山積している。

市としても被爆体験伝承者の養成、平和学習の充実、被爆建物の保存・活用、平和首長会議の開催など幅広く取り組んでいるとは思う。

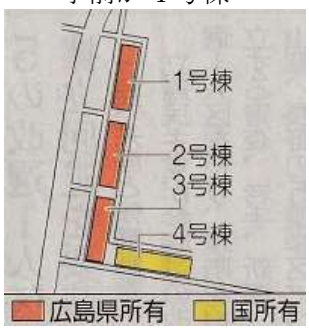
しかし、平和記念都市建設法はどれだけ市民に認識されているだろうか。市の職員さえ、新人研修時にその法律のことを教えられる程度という。市長の責務は市の職員の責務でもある。この法律の精神を職員の心に刻んで職務に全うする環境ができれば、行政のやり方もその結果である事業実績も変わってくるであろう。

この度の広島でのサミット開催が、国際的に核兵器廃絶の機運が高まる場となるだけでなく、広島市民に向けてもう一度平和記念都市建設法の初心に戻って広島のまちづくりを進めるきっかけとなることを願いたい。

ひろしまのまちづくりの動き

① 被服支廠、国所有も保存へ！

手前が 4 号棟



中国新聞（2022.5.18）

中国財務局は広島市最大級の被爆建物「旧広島陸軍被服支廠」の国が所有する 1 棟（4 号棟）を耐震化して保存することを決定。これで全 4 棟とも保存される見通しとなる。

財務局は 4 号棟の耐震化工事に向けた実施設計を今年度中に終える予定。1～3 号棟を所有する広島県は有識者懇談会で利活用策を議論しており、今年度末までに活用の方向性をまとめる予定。財務局もこれを受けて 4 号棟の利活用策を県、市と協議の意向。

2014 年から保存活動を行っている市民団体「旧被服支廠の保全を願う懇談会」（代表中西巌）、署名活動に貢献した市民グループ「旧広島陸軍被服支廠倉庫の保存・活用キャンペーン」、さらに半月ごとに関係者を招いて話を聞かせる Hihukusho ラジオなどにより、被服支廠に関心を持つ市民のすそ野が広がりつつある。

県が主催する有識者懇談会及びその傘下の市民によるワークショップの検討により、4 棟が一体となって広島の戦前戦後の歴史を継承し、未来に開かれた保存活用策が定まることを期待したい。

② 広島大学旧理学部 1 号館の保存活用の動き！

旧理学部本館正面

広島市は公募型プロポーザル「広島大学旧理学部 1 号館の保存・活用に係る技術検討業務」により、業者選定中である。

かつての学都広島の歴史を象徴する建物であり、また被爆建物でもある旧理学部 1 号館の保存・活用を図ること、更に広島の平和に関する「知の拠点」として再生することの二つの視点から、補修方法の検討やライフサイクルコストの試算、保存範囲・平面計画（案）の検討・評価を今年度行う。

2017 年に同施設の保存・活用の懇談会で保存範囲と活用方策が示され、引き続き 2018 年に平和に係る教育・研究の導入機能等について取りまとめられた。

保存範囲は正面部分の建物をベースとし、必要に応じて保存範囲を拡げる。活用方策は幅広い世代に門戸を開いた広島ならではの平和に関する教育･研究や交流･活動を行う場とし、幅広い世代の人々が集い、多目的に利用できるコミュニティスペースとすることを提言。

これらの提言を踏まえて、いよいよこれから実現に向けた具体的な検討作業に入る。

築 90 年が経ち、被爆して構造的な劣化も進んでいるので、耐震補強をどうするか？新たに求められる多目的な交流スペース等をどう確保するか？シンボルである正面ファサードを残しながら、求められる機能をいかに建築計画的に解決できるかが問われている。

○「時代を語り建築を語る会（第３２回）」の報告

語り人：千田武志氏（広島国際大学客員教授・呉市参与）

テーマ：軍事産業から民間会社への転換の失敗、そして今後
―呉海軍工廠から日亜製鐵への転換を例として―

略歴：岩手県出身、広島大学大学院卒業、呉市史編纂室長、広島国際大学教授を経て現職、著書「英連邦軍の進駐と展開」他多数

来年閉鎖が予定されている日本製鉄の瀬戸内製鉄所呉地区の歴史を振り返り、今後の跡地の在り方について呉市の歴史に精通する千田教授の話を聞く。最後に石丸先生より広島アッピールの説明あり。

主催：時代を語り建築を語る会実行委員会（代表：石丸紀興）
日時：2022 年 4 月 30 日（土）15:30～17:00
場所：合人社ウェンディひと・まちプラザ

☆　呉鎮守府の決定

明治 9 年、海軍省は全国に２カ所の鎮守府を置くことを決め、最初に横須賀が決定。次に 14 年に、海軍省内で防備に最適な瀬戸内海の西部（呉）に海軍一の造船所を建設することを内定、19 年に呉に第 2、佐世保に第 3 海軍区鎮守府設立が決定した。そして 22 年、呉と佐世保鎮守府が開庁した。なお鎮守府には、艦艇や水兵、病院に加え、艦艇や兵器の製造・修理を行う造船部と兵器部が含まれていた。

☆　呉海軍工廠とは

明治 36 年に呉海軍造船廠と呉海軍造兵廠を合併して、横須賀工廠と同規模の造船部と造機部、海軍随一の造兵部、唯一の製鋼部、会計部からなる、職工数１万２８４７名（横須賀の２倍）を有する海軍一（日本一）の呉工廠が成立した。

呉工廠は 4 戦艦の最初の艦（1 号艦）を作り、その際、２・３・４号艦建造の企業（他の工廠や民間造船所）の技術者は見学ないし、実際に作業に参加。またそれらの企業に装甲鈑のすべて、大砲などの半分を呉工廠から供給した。「大和」は巨大さが強調されがちであるが、４６センチ 9 門に代表される強力な攻撃力、強靭な装甲鈑よる防御力など多様な要求をコンパクトにまとめたこと、「武蔵」の工数の半分といわれる合理的な建造法など、戦後の日本の産業界に多大な影響をもたらしたことを忘れてはいけない。

そのなかで製鋼部は、精密な兵器用の特殊鋼や「大和」など戦艦用の装甲鈑の唯一の製造工場であるとともに、スクラップから特殊鋼の再生、ニッケルやクロムなどの新金属の研究開発なども担い、それを他の企業に移転する役割を担っていた。

☆　呉工廠製鋼部の民間（日亜製鋼）への転換とその後の進展

昭和 20 年 11 月 30 日に海軍省が廃止、呉工廠は閉鎖された。占領軍の最初の課題は民主化と旧軍の武装解除。旧呉工廠施設を利用し、沈没艦艇など旧海軍兵器の解体と商船の修理。

戦時最盛期に 40 万人以上といわれた人口が 15 万人に激減するなかで、呉市の復興は工廠の活用以外にないと考えた呉市は、20 年 11 月に復興委員会を設立、呉の再生を諮問した。そのなかで細切れに分断するのではなく、一括して八幡製鉄か日立製作所を誘致したらという話も出たが、占領軍が大企業への転用を認めず、幻の案となった。

こうしたなかで旧軍港 4 市は、海軍施設の払い下げを求める特別法の制定を目指すことにしたが、呉は戦犯都市と疎まれていたため、ＧＨＱの承諾を得るのは難航を極めた。そうした困難を克服し「広島平和記念都市建設法」に遅れて 1 年後、昭和 25 年に呉・横須賀・佐世保・舞鶴の 4 都市を対象にした「旧軍港市転換法」が制定された。

これを機に旧軍施設の安価な払下げが進展し、旧呉工廠製鋼部の跡地に日亜製鋼が進出した。昭和 34 年に日本鉄板と合併し、日新製鋼を設立した。その後、二つの高炉を稼働させ、同社の素材供給基地となるが、後年には衰退。来年 9 月には全面閉鎖の予定。

☆　跡地活用のビジョン（私案）

一つの案は、呉工廠が当時の日本の最先端兵器の研究、開発、試作、教育を担う官営の総合的な機関であったことを踏まえ、現代の人類の課題（持続可能社会など）をテーマにした国家的プロジェクトを推進する、研究と製造と博物館機能を併せ持つ総合機関とする。

もう一つの案は、呉市を博物館都市とすることを目指し、現在残されている施設を使用して呉工廠を再現した博物館とする。また、イギリスのポーツマスのように自衛隊の施設も可能な限り見学できるようにする。

広島アッピール

ロシアのウクライナ軍事侵攻に伴い、何か広島から発信しなければと思い立ち、10 年にわたって広島で「時代・都市・建築」について語ってきた会として世界に向けて訴える。

「核兵器や生物・化学兵器などを使用しないこと、無防備な市民や歴史的建築などを攻撃・破壊しないこと、早期に停戦し戦後復興に取り組めるようにすること等、８ヵ条の提言」

時代を語り建築を語る会実行委員会（代表：石丸紀興）

○ *「図書館移転問題を考えるトークイベント２０２２」の報告*

4 月にこども図書館移転問題を考える市民の会と広島文学資料保全の会の共催による「図書館移転問題を考えるトークイベント２０２２」が広島市青少年センターで開催された。

前号でその概要を紹介したが、今号では弓狩匡純氏（作家・ジャーナリスト）の基調講演を中心に紹介する。

基調講演の会場

第１部：基調講演

―自己紹介―

1959 年、兵庫県生まれ。8 年程前から広島を取材し、広島の戦後復興を描いたノンフィクション「平和の栖　広島から続く道の先に」や高校生が被爆者から話を聞いて被爆の記憶を描いた「平和のバトン　広島の高校生たちが描いた 8 月 6 日の記憶」を執筆。（弓狩氏の公式 HP 参照）

広島出身でないため、外から客観的に広島を見ることができる。

栂原町立図書館

―公共図書館建築の最近の事例―

ゆすはら 空の上の図書館（高知県高岡郡栂原町）は新国立競技場を設計した隅研吾の設計。2018 年オープン。総工費約 28 億円。地元の木材を多用した空間の中で、子供が寝転びながら本を読んだり、リラックスできる空間づくり。

みんなの森 ぎふメディアコスモス（岐阜県岐阜市）は著名な建築家伊藤豊雄の設計。2015 年オープン。総工費約 125 億円。宇宙的なドーム空間が魅力。

自然との調和が今のトレンドであり、時間と空間を楽しめるコンセプトが主流である。

岐阜市立図書館

―公共図書館の歴史―

人類は自然と対峙し、自分の生きた証や地域の歴史などを伝えるために口承から書承へ移行し、それらの記録を資産家や為政者が集めるようになったのが図書館の始まり。18 世紀後半に人権意識が芽生え、市民革命や産業革命を経て 1850 年に初めてイギリスで公立図書館法が成立し、地域住民のための公共図書館の概念が定着。

知の拠点としての役割が主だが、欧米では地域社会のセンター、コミュニティの中核として機能。ボランティアによる読み聞かせや移民に対するサポートなどを担うなど、市民による市民のための図書館である。さらに新しいトレンドとして、積極的に図書のデジタル化を進め、利用者へデジタルサービスや情報格差の解消などに寄与している。

―広島ならではの公共図書館を―

広島のアイデンティティは被爆が原点（負の遺産）であり、被爆からの復興（正の遺産）だが、それが危うくなっている。被爆者がいなくなれば、マスメディアも注目しなくなる。広島とは何か、新たなアイデンティティを築かなければ、広島の存在感が変質していく。

ウクライナの戦争で核兵器使用が問われている今こそ、広島から平和について発信すべきであり、世界がそれを求めている。

被爆者それぞれに貴重な体験談があり、被爆者団体の資料もあったが、孫の世代になると価値が分からず破棄されることが多い。このままだと教科書に載る歴史しか残らない。

原爆文学や被爆証言などの被爆関係や復興関係の資料も分散したり、散逸したりしている。どこかが一つにまとめて収集・整理し、デジタル化して世界からのニーズに対応できる施設が

求められている。その主体となるのが広島の公共図書館の役割ではないか。

地元財界の関心が薄いのも気になる。産業を発展させるためにも優秀な人材を育てる知の拠点としての図書館は大事。また広島育ちの人は県外に出てUターンしない人が多いのも、魅力的な文化・経済環境が足りないからではないか。図書館はその魅力の一翼を担うことができる。

―中央図書館移転の懸案事項―

今回の図書館問題は、①どこに移すか、②費用がいくらかかるか、③建ぺい率（敷地面積に占める建築面積の割合）の制約、④市の第3セクターの救済の4点に絞られる。

① 広島駅前の複合ビルの8～10階のフロアに移転することを市は想定しているが、本来の図書館機能が発揮できない。

② 市は移転費用として約96億円（内、フロアの取得費約60億円）、建替え費用として約123億円（内、仮設費約32億円）を見込み、市は移転の方が有利と判断。しかし、複合ビルは1999年の開館であり、すでに23年が経ち、後年になれば再び建て替え問題が生じてくる。

③ 中央公園は都市公園法による建ぺい率の制限がある。新サッカースタジアムを建設するとオーバーし、図書館や青少年センターなどを追い出さなければいけない状況。

④ 駅前の複合ビルは市の第3セクターが管理運営しているが、経営困難に陥っている。赤字を補填すると共に③を解消するために、市は複合ビルへの移転を進めようとしている。

―中央図書館の私案―

移転予算は成立したが、ゼロベースで再検討するという付帯決議付きであり、これをチャンスと前向きにとらえ、市民の方でも市の案を凌駕するような提案を出すべきである。

個人的な中央図書館の提案だが、サッカースタジアムの東側の広場エリアの地下に建設し、地上部は芝生広場とするのはどうか（古墳型＊リンク参照）。採光の問題はルーブル美術館の中庭に設けたガラス張りの大型ピラミッドのような採光方法もある。

セールスポイントは、丹下の平和軸線上に採光用のトップライトを設けて可視化し、広島らしい平和の理念を建物に付与することである。

ルーブル美術館ピラミッド

第2部：ディスカッション

・平和の軸線上のアイデアに共感した。→広島ならではの付加価値を付けるべきだ。（弓狩）

・図書館に利便性や賑わいは馴染まない。百貨店に買い物に来た客が図書館に立ち寄るとも思えない。→図書館の利便性はコンビニとは違う。図書館機能の一つであるコミュニティを形成するための利便性が求められる。（弓狩）

・昭和24年の広島平和記念都市建設法ができた頃の状況は？今、その法律の精神が受け継がれていないのでは？→GHQの言論統制下ではあったが、広島の復興については自由闊達な議論がなされていた。民主化を進めるためにも中央公園に文化施設を建設する動きがあった。平和記念都市建設法は日本国憲法に倣ったスタイルをとり、世界に向けて平和なまちづくりを宣言している。その法律には「市長の責務」も明記されている。（弓狩）

紛争国の人々が広島を訪れて一番感心するのは、廃墟の町からどうして今のような近代都市に復興できたかということ、どうして原爆を落としたアメリカを許すことができるのかという2点。平和学習も被爆の実相を伝えるだけでなく、広島の憲法ともいうべき平和記念都市建設法についても教えるべきだ。広島のアイデンティティもこれからは復興にも力点を置くべき。（弓狩）

・学校の図書室に関わっていたが、図書館の利用を盛り上げていこうという雰囲気はなかった。もし市民から愛される新しい中央図書館ができれば、学校の図書館も変わると思う。

司会者：広島市が目指す平和文化都市とは何かを考え、それにふさわしい図書館像を求めて、これからも検討の場を設けていきたい。

＊コメント＊

付帯決議を受けて、市がどのような対応をするのか見守るだけでなく、市民サイドでも考えて積極的に提案していこうという姿勢に共感する。図書館を地下に作って地上を芝生広場にするという弓狩氏の大胆な提案は、建築面積を増やさない方法として一つのアイデアである。平和記念公園の国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の例もあり、検討に値すると思う。ここは建築家たちが知恵を出す番であろう。　（編集委員　瀧口信二）

□ ほっとコーナー

諸悪莫作衆善奉行(しょあくばくさしゅうぜんぶぎょう)

茶道教授者　佐藤祐江

タイトルの禅語は、「あらゆる悪を為さず善を保ち自分の心を清める」という解釈をしております。当たり前の話ですが 50 歳を過ぎても日々の実践は如何なものでしょうか。

とんちでお馴染みの一休さんはこの禅語をよくお書きになられたとの事です。

改めまして、この様にありたいと日々修練中の茶道教授者佐藤です。

古筆を学び続けて、先日偶然にも一休宗純さんのお筆を拝見することが出来たのです。

もちろん感激・感動です。半紙の素材などどの様な筆で書かれたのだろうと興奮冷めやまない思いでした。

また、その掛物は『善』の文字が少し横に書いてあるのでした。勢い余って書き忘れたのでしょうか？それとも、一休さんの事ですからわざわざ大切な文字を現す為に後で横に書かれたのでしょうか？

時空を超えて訊ねて想いを馳せる事です。

茶道は、衣食住に関わる総合芸術です。歴史・建物・庭・室礼・掛け軸・数々のお道具・懐石と呼ばれる料理、そして着物に至るまで茶道を楽しむと言う言葉の中に含まれます。

そのどれに魅了されても奥が深く飽きる事なく楽しみが多いのです。時代により当主・藩主が変わっていく中、好みや風習、趣も少しずつ変化しております。

その中で変わらずあり続けるのが掛け物の禅語なのです。良い言葉は時代を超えて言い伝えているのです。

現在茶歴 40 年、この掛け物の文言・書体・古筆・変体カナ・色紙を学びより深い茶の道に迷い込んでおり、茶会に出かけては掛物を楽しんでおります。

○「旧陸軍被服支廠の活用策を探る広島県の動き」報告その３

広島県は有識者検討会議を開き、被服支廠の耐震化の実施設計や国の重要文化財指定に向けた歴史的価値の調査の検討を行っている。それと並行して被服支廠の活用策を考える有識者懇談会を開き、来年 3 月末までに活用策の方向性をまとめる。

その傘下に市民からの幅広いアイデアを募るため 50 人程度のワークショップが置かれ、時・人・場所をつなぎ、「みんなで守り・育て続ける」被服支廠を基本的な考え方としてアイデアを出し合っている。

＊ワークショップメンバー：青木知栄さんのコメント＊

６月１１日、第３回ワークショップ（WS）が開催されました。1、2 回目、建物見学、大規模 WS 参加を経て、今回は個々の「意見の交換」が出来たという印象を持ちました。

テーブルに人が移動しながら異なるテーマについて語れる形だったことや、回を重ねてきて話しやすい空気になっていたことも作用していたように思います。

今回事前に資料を見て、これほど具体的な細かい活用案・要望が多数挙がっていたのだと知り、現状を知る参考になりました。

横浜在住である私が参加したきっかけは、赤煉瓦建築に元々興味があった事に加え、故あってここ数年広島を訪れる機会が重なる度に、もっとこの街を知りたいし関わりたい、と思い一人街歩きをするようになったタイミングだったからです。

つまり「赤煉瓦と広島が好き」からスタートしたわけで、正直そんな自分に被爆建物について語る資格があるのだろうか？と躊躇する時もありました。ただ、参加出来たら、まずは地元の方々はどうしたいのかを知りたいとずっと考えていました。

広島に知人が少なく話を聞く機会もなかったのですが、WS 参加者の皆様、特に若い世代

の人達の考えや近隣の方々のリアルな言葉を聞く機会を得、自分の考えが変化しながら形成されてきているのを感じます。

実際に初めて建物を見た時は非常な衝撃を受けました。近隣の建物との距離の近さ・静かな日常感（身近すぎてむしろ気にして来なかった、と語る近所の方もおられました）、なのに被爆したむき出しの裸のまま晒されている大きなスケールの姿との対比というかアンバランス具合は、初めて見るものでしたから。

この立地の現況は本件の要のひとつであり、また現地見学で見た内部構造と空間は独特で、建物の履歴が持つ、感覚に訴えて来る強い力は他では見られない質のものだと体感しています。このリアルな力は、建物群全体の保存でしか活かせないのでは、と個人的には思うので、**全棟保存**。軍都と被爆という建物の生い立ちもこの建物の存在意義だと思うので、**その事実をフェアに伝えること**。また具体案としては、言語や文化圏が異なっても個人レベルで理解・共有できるものという理由から、**アート関連の活用も**。

以上の点は、一貫して自分の中にある考えです。

今後 WS がどう動いていくかわかりませんが、「建物を存在させることで誰に何を伝えたいのか」を軸に据えていきたいと思っています。

私達も今の WS がどう纏められ、誰のどういった判断で何が決められていくのか先々まで関わる必要があり、また関係各位には開示と周知を継続して頂きたいと思います。

総　集　編（2）

○「響け！平和の鐘実行委員会」の活動の歩み（平成 27 年創立～現在）

響け！平和の鐘実行委員会　事務局長・片平　靖

２代目平和の鐘については、このメルマガでは毎年８月６日に開催する祈念式の案内と開催結果を掲載している。改めて、「響け！平和の鐘実行委員会」の成り立ちと活動におけるトピックスを取り上げて、これまでの歩みをまとめた。

１　活動のきっかけと祈念式の開催

第３回平和祭(1949 年)

旧市民球場跡地の北隣に佇む「平和の鐘」は、昭和 24 年(1949)に広島銅合金鋳造会が焼け跡の金属を集めて鋳造し、２代目「平和の鐘」として広島市に寄贈した鐘である。鐘には、「NO MORE HIROSHIMAS」の英文と平和の象徴の鳩の羽ばたきが刻みこまれている。この鐘はその年の第３回平和祭（現・平和記念式典）で一度だけ鳴らされ、その後は歴史の片隅に追いやられていた。

第１回祈念式(2015 年)

「父さんが造った鐘をもう一度鳴らしてほしい！」という鋳造会の遺族の願いに応え、“このまま風化させてはならない”と共鳴する同志が被爆 70 年を機に祈念式を開催し、この鐘の音を復活させたのが実行委員会の活動の始まりである。

平成 27 年(2015)第１回の祈念式には、実際に鋳造に携わった方のお一人も含め、鋳造会の遺族や濱井市長の子息のほか、広島合唱同好会など 100 人余りの方々に参加いただき、原爆の日としては 66 年ぶりに鐘を打ち鳴らした。その後、鋳造会の遺族をはじめ多くの方々の協力を得て、毎年８月６日に原爆で亡くなられた方の慰霊と世界平和を願い、祈念式を開催している。

２　活動におけるトピックス

（１）　実行委員会のホームページ（ＨＰ）の立ち上げ

平和の鐘

２代目平和の鐘の存在と実行委員会の活動を広く知ってもらうため、平成 30 年(2018)に実行委員会のＨＰ「響け！平和の鐘」を立ち上げた。このＨＰには、平和記念式典で鳴らされた歴代の鐘や２代目平和の鐘の制作過程やメンバー、規約のほか、これまで整備してきた平和の鐘復元整備や鋳物鳩の制作・設置、毎年の祈念式の報告などが掲載されている。

（２） ２代目「平和の鐘」の歌の制作

平成 29 年(2017)第３回祈念式で、２代目「平和の鐘」をテーマにした「鐘よ、平和の鐘よ」が、初めて披露された。この歌は和泉佐野市在住のあきたかし（本名・水野喬）氏に作詞・作曲していただいた合唱曲である。当日は、広島合唱同好会（代表・大上義輝）の男女 40 名が優しく、清く、高らかに歌い上げた。

「鐘よ、平和の鐘よ」の合唱

（３）平和の鐘周辺の復元整備

実行委員会は、この鐘を風化に任せ、歴史の彼方に忘れ去ることは出来ないという思いから、昭和 24 年(1959)当時の姿にできるだけ戻すことを広島市へ強く要望してきた。

これに応えて、令和３年(2021)の２月から７月にかけて、２代目平和の鐘とその周辺の整備が広島市の手で行われた。設置当時の状態に戻すための復元整備である。これまでの地盤高より１m近く掘り下げ、コンクリートの基壇を打ち補強した。また、ハノーバー庭園側からは石段でアプローチできるようにし、南側の樹木も伐採し、真正面に原爆ドームを拝むことができ、見違える様に復元された。まわりの木立の緑陰の中で、平和の鐘の鐘楼が涼しげに立っている。

復元整備された姿

（４）「つがいの鳩」の復元・設置

当初、鐘の塔柱に付けられた鋳物の「つがいの鳩」４か所のうち３か所が欠落・紛失したままになっていた。令和３年(2021)塔周辺の復元整備に合わせて、無くなっている鋳物鳩を復元・設置する取組を行った。この「つがいの鳩」は郷土の日本画家・片田天玲画伯のデザインによるもので、平和の鐘本体にも付いている。同じものを制作するため、鋳造会会長の子息・松村伸吉氏の手元に残っていた鳩をサンプルにした。

新たな「つがいの鳩」は鋳造会メンバーであった平賀金属工業（安芸高田市）に依頼し、鋳造された。この制作費用は 32 名の方からの協賛金により賄われ、令和３年(2021)の祈念式においてお披露目され、広島市に寄贈された。

鋳物鳩（左：当時、右：復元）

（５）鳩のピンバッジの制作・配付

この「つがいの鳩」の復元・設置を記念して、「つがいの鳩」のピンバッジを制作し、これまで実行委員会の活動にご支援、ご協力いただいた方へ配付している。制作費用は実行委員会提唱者の船越聖示氏からの寄贈による。この新たな実行委員会のシンボルとなるバッジを付けて、今年の祈念式には集うことにしたい。

鳩のピンバッジ

３　将来に向けて

「これからも毎年８月６日には、平和の鐘を鳴らし続けていこう」が実行委員会の総意である。毎年、祈念式を開催し活動を続けていくほかに、これまでの調査で集めた貴重な資料を残し伝えるために、２代目平和の鐘だけでなく広島に多くある「平和の鐘」に関する取材や資料を整理して、一冊の本「ヒロシマ平和の鐘（仮称)」にまとめ、出版する計画を進めている。

本稿を書き終え、平和の鐘を鋳造した当時の方々の熱い思いを後世に伝えるために、将来に向けて活動を継続していく新たな決意をした。

○ *令和４年 響け！平和の鐘祈念式の開催～昨年と同様に簡素化して実施～*

第８回目となる今年の祈念式は、平和の鐘周辺が工事中でもあり、また新型コロナウイルス感染の拡大防止のため実行委員会のメンバーのみで行います。

簡素化した式典となり、誠に残念ですが、ご理解いただきますようお願い致します。

・日　時　　令和３年８月６日（土）９時 30 分～10 時 00 分（雨天決行）

・場　所　　広島市中央公園（基町）２代目「平和の鐘」付近

詳細は HP を参照ください。　　「響け！平和の鐘」　http://hiroshima-peacebell.org/

□ 特別寄稿　　プーチンの強気

ガリバープロダクツ代表　通谷　章

ロシアのウクライナ侵攻に対して世界中が痛烈な非難を浴びせている。とりわけ集中砲火の先はプーチンなる一人の戦争指導者に対して。どうしてあんな残酷な行為ができるのか、同じ人間として信じられないという論調である。にもかかわらず、西側諸国の悲痛な叫びは一向に届かず収束する気配が見えない。それどころか核の脅威をちらつかせるなど、世界終焉の気配さえ見え隠れしている。なぜにプーチンは強気を維持できるのか。あの色白でのっぺり顔は益々頑なになり、自信さえ感じられる。

プーチンを支えてきた後ろ盾に大富裕層の「オルガルヒ」と言われる人間たちがいる。彼らの殆どがプーチンと同じサンクトペテルブルクの出身。プーチンは同郷の彼らに格別の優遇を与えていたが、非道な戦争と西側からの経済制裁に心が離れ、ロシアを見限った人間も複数出ている。これにより、資金源の底支えがぐらつき、侵攻に歯止めがかかることが期待されたが、どっこいそうではなかった。国外に脱出したオルガルヒは次々と不審な死を迎え、裏切り者の運命はどうなるか、改めて恐怖政治で覆われたロシアの実態を浮かび上がらせている。

プーチンは人並みの感情を持ち合わせていない。国際常識も平然と無視できる。情報操作もお手の物。国民を懐柔するプロパガンダを垂れ流し続けている。狂気に支配された覇道強権の強気は何で裏打ちされているのか。侵攻を開始して以来、この間の動きに丁寧に目を通すと彼の精神的支柱が見えてくる。それは宗教的バックボーン、ロシア正教会の存在、とりわけ正教会トップの指導者キリル総主教の存在である。

キリル総主教――彼もサンクトペテルブルクの出身。いわばプーチンとは強い身内意識を持つ。聖職者を志して神学校で学ぶ一方でＫＧＢの工作員として活動した過去があり、正にプーチンと似た経歴の持ち主。何をかいわんや、の人物である。

総主教の発言を少し拾ってみると、どれもかなり怪しい。四月末ロシア軍大聖堂＝ドイツに戦勝七十五年を祈念して建設＝で行われたイースターの席上で「このたびの戦争はロシア国における内戦」と実態を擦り替えた表現をして驚かせただけでなく、西側の抵抗を「ロシア民族に対立する特定の勢力」と断定、「軍隊のみならず国民全体が強くなれ」とロシア軍及び国民を鼓舞、以後同様の発言を繰り返している。軍の士気を高め、国民に戦争の正当化を植えつける一連の発言はとても宗教家とは思えない。更には、遡ることプーチンが大統領に就任した際には「神の奇跡」と褒めそやしたのは今も記憶に新しい。

これら国際世論を蔑ろにしたキリル発言を最も喜んだのは他ならぬプーチン、領土拡大を目指すプーチンと新たな信者の獲得を目指す総主教の意図はぴったりと合致、今や二人は最大の蜜月状態にある。プーチンを擁護するに充分な働きをしていると見るのが妥当だ。

さて、ロシア正教会はどういう組織なのか。キリスト教の三大教派、①ローマカトリック、②プロテスタント、③東方正教会（約二億人）のうち、東方正教会に所属するのがロシア正教会。一億人の信者を擁する最大勢力でロシア人の七割が信仰している。

また、侵攻先のウクライナには「ウクライナ正教会」が存在する。ドンバス地域などロシア軍に制圧された親ロシア派が多数いる地域がそれで、クリミアを併合した後にロシア正教会の支配下に組み込まれている。このことから「内戦」と表現したのであろうが、どう割り引いても手前勝手な解釈。総主教の偏向した考えは、心あるロシア人を悲しませたが、厳しい管理統制下、残念ながら未だ表立った動きにはつながっていない。

音楽に政治と宗教を持ち込んではならない。こう言ったのはビートルズのマネージャーだが、世界各地の紛争に宗教が絡むケースは数えきれない。

ソ連→ロシア→キリスト教の関係はどうなのか。旧ソ連時代、共産主義は宗教を弾圧した。共産主義を確立するには宗教は邪魔と見なしたのだが、再び表舞台に登場するようになったのはプーチンが政権を握ってからのこと。言うまでもなく宗教は人の目を晦ませる作用がある。政治と軍、これに宗教を絡ませれば思惑は成就する。覇道を目指す権力者にとって看過するには惜しすぎるのが宗教。プーチンの意図はここに集結する。

かつてマルクスは「宗教はアヘン」であると言い切った。人類に有害な「物」との指摘である。だが、人類は宗教と決別した過去を持たない。東方正教会の信徒である多くのロシア兵が、かつ

ての十字軍のように流血の戦場に身を投じていくのも輻輳する教義を抱えるキリスト教の根深さに行き着くからだろうか。

殺戮の戦場を「聖戦」と位置づける改竄は過去多くの紛争の歴史が証明している。ウクライナ侵攻、ロシアの指導者たちは糊塗を続け、多くの血が流され続けている。突き詰めればすべて人間のエゴに端を発した問題ばかり。欧州ＮＡＴＯの拡大に対抗する戦い、ロシアの危機を取り除くのが表に掲げた大義だが、宗教が水面下に潜んでいるのを忘れてはならない。

ロシアは今やアヘンに酔っている。いつになればプーチンの強気は収まるのであろうか。何千年も紡いだ人類の歴史は物質文明のみが進化し、人間の心は比例して進化していない。世界中の誰もが見えざる明日に不安を抱いて生きている。（2022 年 5 月記）

○ *読者からの投稿*

絶対反対！

読者　小河内俊彦

いつもメルマガの配信をありがとうございます。

図書館・青少年センターの件、市の考え全くもって絶対反対です。加えて併設の映像文化ライブラリーは全国でも類を見ない貴重な施設です。

最近の行政のありよう、どうもいびつに思え、文化施設をボロボロにしたまま何をやっているんだと、いつも利用する度に腹立たしさを感じます。学芸員・司書資格を持つ者として、思いはなおさらです。

未だに総合的な博物館もない・・・。図書館の質や程度でその街の価値が決まるように思えます。旧広島文理科大学の校舎も放置されたまま。図書館がエールエールに移されれば、広島はお粗末極まりないつまらない都市となるでしょう。　絶対反対！

□ 編集後記

この時にするべきこと

コロナ感染の緩和もつかの間の事かもしれない。ウクライナのロシア侵攻も先が見えない泥沼化する様子でロシアの核使用の脅しに対抗する西側諸国の方向が見えない状態である。伝染病や世界大戦などこうしたことは、人類は何度も繰り返し、そして何らかの結論を出して生き延びてきた。

今日、世界の事象の推移に気持ちを持っていかれがちではある。その反動で落ち着いて考えられない日々が続いている。しかし世の中は刻々と歩みを続ける中で、まちは変化を遂げているのだ。

こうした時こそ冷静になり、私たちの身の回りをよく見てみることが大切である。広島は相も変わらず将来像の見えないまま、疑問と矛盾に満ちたまちづくりが進められている。

今こそ、自分たちの将来を想像して、まちづくりビジョンを作り上げ、広島の将来像に結びつけいく絶好のチャンスでもある。まちを上げてこれをやり遂げることこそ広島の取るべき道ではないのか。

（編集委員　前岡智之）

メルマガを読まれての感想や質問及びひろしまのまちづくりについて皆さんの自由な提案・意見をお聞かせください！

（投稿は５００字程度でお願いします）

編集委員

石丸紀興　広島諸事・地域再生研究所主宰
高東博視　響け！平和の鐘実行委員会代表
瀧口信二　広島アイデアコンペ実行委員会事務局
通谷　章　ガリバープロダクツ代表
前岡智之　中国セントラルコンサルタント代表